

2024 年度年次報告書

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築

2023 年度採択研究代表者

長尾 美紀

京都大学 大学院医学研究科

教授

感染症の流行に強い高齢者福祉・医療の構築に関する基盤研究

研究成果の概要

本研究は、将来のパンデミック発生時に高齢者福祉・医療分野における混乱の最小化と感染制御の両立を図るため、COVID-19 パンデミック時の対応を京都市を中心に記述疫学的手法で分析したものである。2024 年度は、主に以下の 4 点を中心に研究活動を行った。

まず、前年度に収集した行政記録、検査結果、クラスター発生状況等を分析し、高齢者施設における感染拡大防止策の有効性と課題を検討した。また、データの分散管理や欠損の問題から、医療・福祉・行政の情報連携基盤の整備が必要であることが示唆された。

次に、法学・情報学の研究者および感染症対策実務者による座談会を通じて、パンデミック時における個人情報の取り扱いと情報共有の在り方を議論し、公衆衛生とプライバシー保護のバランスに関する実践的知見を整理した。

さらに、高齢者施設における感染管理体制の脆弱性をふまえ、自治体や関連団体と連携して、介護職を対象とした感染対策担当者の育成プログラムを立案した。この取り組みは地域モデルとしての展開が期待される。

最後に、人の接触を可視化する技術を活用し、高齢者施設内での接触行動を時系列で分析する実証研究を行った。これにより、感染リスクの評価や施設設計への応用可能性が示された。

本研究を通じて得られた知見は、今後の感染症対策の実効性向上に資する基盤形成に寄与することが期待される。